

川南町議会・令和8年6月定例会一般質問【河野 禎明 議員】

○議員（河野 禎明議員） マイクの不具合で、最初に発言しようとしたことがちょっと今思い出せないんですけど。分かりました。今回からY o u T u b eの収録ということで、今私が一般質問でしていることが、50年、100年後の町民に見てもらえる可能性があるということで、記憶に残る一般質問、それを心がけてやりたいと思います。

通告に従い、1 番目、新中学校建設計画について。2 番目、小学校の統廃合について。3 番目、文化ホールについて。以上のことを、下の質問席からお伺いしたいと思います。

1 番目です。新中学校建設計画についてですね。

今の状況は、皆さん本当に困ったなということが起きてますよね。イラン、アメリカの石油に関することですね。石油が来るか来ないか、それもよく分からない。ということは、建築資材が本当に来るのか。建築しようとしても、ちゃんと予定通りできるのか。全く誰も分かりません。今の状況はですね。

そこで今、新中学校建設計画は、恐らく場所からして鉄筋コンクリートを考えてるんじゃないかと思うんですよね。校舎は3階建て、いろいろかかるんですけど、この今の状況で建築費が幾らぐらいかかるか。

私、この前、登り口行ったときに、鶏糞発電所の2号機を見ました。新しい、九電が造ったやつですね。100億円かかっています。これは。あそこに学校、何にもないところから全部造るわけですね。考えただけでも大変な費用がかかります。これやっぱ100億円くらいかかるのかなという気がします。

そこで、町長にお伺いしたいのは、この木材ですよ。鉄筋じゃなくて木材。町有林に杉、檜がいっぱいあります。今は工法的にも木材で造れるという工法が、いっぱいいろいろなあれに出ています。この木材を利用した校舎建設、体育館建設ですね、これはどうでしょうか。町長、考えてはみませんか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の御質問にお答えします。

まだ正式な設計等には至っておりませんので、ただ、木材の利用というのは、やはりそこに学校で学んでいた子供たちにとっては、温かみであったり、非常に重要なものじゃないかなと思っています。そういったことも含めて、今後、建設、設計等に入ってはしっかりと業者の方々にもお伝えしていきたいと思っています。

以上です。

○教育長（平野 博康君） 申し訳ありませんが、私のほうからもちょっと補足させていただいてよろしいでしょうか。

新中学校の整備につきましては、川南町立中学校の統合に係る基本方針に基づき、安全で快適な教育環境づくりを基本に進めているところでございます。町有林を含めた地域材の活用につきましては、地域資源を活かした学校づくりや、木のぬくもりを感じられる教育環境づくりの観点から大変重要であると考えております。

一方で、学校施設は、生徒が長期間にわたり、安心して学ぶ公共施設であり、十分な耐震性能や耐火性能、耐久性に加え、将来的な維持、管理や更新への対応、長期的な施設運営に関する経費なども含め、総合的に検討する必要があるかと思います。

今後、設計段階におきまして、安全性や機能性を重視しつつ、内装や共有スペース等に木材を活用する木質化も踏まえながら、コスト面や維持管理面等も含め、専門的な知見を伺いながら最適な整備手法について具体的に検討してまいりたいと考えております。

以上です。

**○議員（河野 禎明議員）** 木材ですね。歴史的建築物は、今日本にやはり、世界遺産でもなりそうなものは木材なんですよ。鉄筋が丈夫ということはないですね。これはもう証明できますね。私は木材のほうが、結局木材は地元の業者でできるんですよ。鉄筋でやろうとしたら、今こう考えただけでも設計費が前のときが2億3,500万円くらい設計費があったんですかね。今度は2億5,000万円くらい設計費がかかる可能性がありますよ。

そしてこの前、3月議会では中学校の委託が出ましたね。コンストラクションマネジメントとかいう、どんな中学校を造るのかという、そのことを委託する。それはそれじゃなくて、今私たち実際、町内に教育関係者、いろいろ詳しい人がいるわけだから、この情勢ですよ。今普通の情勢じゃないですよ。今とてもじゃないが、はい、ものを建てますとか言える状況じゃないんですよ。ここは地元の今、教育関係、いろいろな建築詳しい人を集めて中学校どうしたらいいのか、どういうふうに建てたらいいのか、人に頼むどこじゃないんですよ。この前2億800万円委託料を上げたんですよ。人に頼むどこじゃないんですよ。自分たちで今考えないといけないんですよ。町長、これ、本当に人任せじゃだめじゃないんですか。どうですか。

**○町長（宮崎 吉敏君）** 河野禎明議員の質問にお答えします。

今、河野議員がおっしゃった様々な懸念材料というのは承知しております。その中で、なぜCMという組織を入れるのかというのは、専門的な知識を持って正確に物事を進めていくという、私たちでは計り知れない専門的な知識を活かした形でコストの削減であったり、施工期間の遵守であったり、そういった形の専門的な知識をいただくという、まさしく地域の事業者は、今後、施工という形の中で参加してくることになろうと思いますけど、そういった最初の貴重な第一歩目をそういった専門知識のある方々に委ねたい、そういう形で考えております。

以上です。

**○教育長（平野 博康君）** 私のほうからも若干補足をさせていただければと思います。

CMのことについての御質問がありましたけれども、今、町長がおっしゃってくださったように、あくまでコスト管理でありますとか、施工管理をしていただくことが中心になります。中身については発注者主体といいますか、要望等を聞いていただくということで、現在、教育委員会におきましても、どのような学校にするのかということは協議しているところで

ございます。それをできるだけCMのほうにお伝えして、望ましい学校のほうを進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（河野 禎明議員）　そうですね、今考えると、木造も普通で建築を発注したとしても、いつできるか分からない状況なんですよ。急ぐんです。中学校統合も急ぐ。新校舎も急ぐですよ。木材を今考えてやろうとしたら、これ計画がどんどん進むんですよ。早くできますよ、これは。どっちが早くできるのか考えてみてください。これはもう木材を利用したら早くできることはもう間違いないです。―〔発言取り消し〕―

川南はそれが可能だと思います。

ぜひ、この木材で造るということを、今、そして早く造ろうと。新中学校早く造ろうと。そういうふうに皆さんの考え、もうよそに、もう委託せんでも町議で、皆さん関係者が集まって、そういう方向性は出せると思うんですよ。まあ一つ考えてください。ちょっと町長にお伺いしたいんです。町長、この新中学校の建設は町長の悲願なんですか。悲願かどうかを聞きます。

○町長（宮崎 吉敏君）　河野議員の質問にお答えします。

私、行政を預かるものとすれば、子供の教育環境、またそういったもの、教育環境と、それからそういった施設ですね。これは、川南町の未来にとっての一番大事な投資であると考えています。子供たちにとって素晴らしい環境の中で学んでもらう。そのためには、新中学校というのは、私の最大の関心でもありますし、何としても成し遂げるといふ、そういう思いです。

以上です。

○議員（河野 禎明議員）　今の少子化なんですけど、10年後の生徒数をこう考えてみると、小中合わせて約600名ぐらいじゃないかと思うんです。10年後に中学校はもう256名と表が出てますけど、中学生は20名ぐらいは町外に行く可能性がありますね。小学生はコロナの始まってから、出生が町内は1年間に大体60名なんです。その子たちが小学校をどんどん上がっていくわけです。60名に6学年かけたら360名です。10年後に600名いないかもしれないんです。町長、中学校だけ建てるのは大問題じゃないでしょうか。小学校のことも考えたらどうでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君）　河野議員の質問にお答えします。

今現在、国光原中学校1年生、入学生28人です。唐瀬原中学校2クラス、3クラスですか。これはちょっとまた確認してお答えします。今の状況の中で、国光原中学校の子供たちが1クラスで学んでいく。多様な教育環境の中で、多様な学びをという中では非常に厳しい状況じゃないかなと思っています。

まず、今日の前にある中学校、新中学校。そして併せて、小学校のことも含めて教育委員会もしっかりと議論、検討を始めているということを伺っております。そういった中で、中

学校、新中学校建設というのは、令和13年4月開校。これを目指してしっかりと進めてまいります。様々な河野議員から木質でというお話もありました。

ただし、こういった公営施設というのは50年、65年先を見据えた建設というのが大事だと思っています。木材で造るというのも、それも可能かもしれませんが、ただし、いろんな年ごとに保守等の手当がいるということになれば、果たして木材が未来永劫をそれで続くのかということまで含めたら、これはもう設計、見積り等でしっかりとお示しが出てくると思いますので、それを尊重しながら子供にとって大事な、まず中学校建設。これは、先の議会で12月、昨年度12月、基本計画の中で9対2という賛成で議決をされました。この議会の議決というのは、私は非常に重いと思っています。何としても議会の議決を得て13年4月開校、これはもう絶対に進めていきたいと思っています。

以上です。

**○教育長（平野 博康君）** 中学校だけではなく、小学校もというお話でありましたので、少し補足をさせていただければというふうに思います。

議員御指摘のとおり、本町におきましては、中学校だけではなく、小学校も児童数の減少が進んでおり、将来的な学校の在り方について考えなければなりません。

教育委員会としましては、小学校につきましても児童数の推移や教育環境、地域との関わり、保護者の要望など、総合的に考えると、段階的な統合や小中一貫教育も視野に入れた再編が必要であると判断し、昨年11月から検討を行ってまいりました。

そして、先月末、川南町立小学校の再編に係る基本方針を策定したところでありまして、近日、その方針内容を公表させていただく予定にしております。

今後は、中学校だけではなく、小学校におきましても子供たちにとってのよりよい教育環境を求めて、町民の皆様の御意見を伺いながら、その実現を目指してまいりたいと考えております。

以上です。

**○議員（河野 禎明議員）** 本当に教育長、子供のことをよく考えていただいて、ありがたいと思います。町長はその点、何かおかしいなと思います。中学校だけ建てて、今の建築費がいくらになるか分からない状況ですよ。80億になるかもしれない、100億になるかもしれない、周辺の整備を入れたら、とんでもない金額になるかもしれないんですよ。中学校だけ建てたら、小学校造れなくなるんじゃないですか。造れますか、小学校が。中学校だけ建った後に。あなたは財政的にそういうものがあるんですか、根拠は。

**○町長（宮崎 吉敏君）** 河野議員の御質問にお答えします。

大切な財政、これはしっかりと、設計、見積り等が出てきた時点で判断してまいりたいと思います。ただ、まだ設計、見積りも出ていない時点で、80億、100億と、そういったお言葉で、そのお言葉が町民の皆様に不安を与える。これは、はっきりとした数字が出てから、そういった御質問をいただけたらなと思います。

今考えている中で、小学校はこの議会が終わった後に発表されるということですので、そのことを尊重しながら小学校ができるのかできないのか。教育委員会が今、しっかりと小学校のこと、中学校、そして小学校のことを含めて検討を進めています。そして、その基本計画というものが示されるということですので、私は小学校の建設がどうかということよりも、教育委員会が今考えていることを尊重しながら、小学校のあるべき姿というのを進めていきたいと思います。

以上です。終わります。

**○議員（河野 禎明議員）** 町長、これY o u T u b e でずっと残るんです。何かちょっとこうはつきりしませんね。もやもやしますね。中学校だけいくらぐらい、もう分かるでしょ。大変な金額がかかるということ。それだけ建てちゃったら、小学校はしばらく造れないんですよ。誰が考えても分かるでしょ。ここは小学校も中学校も造れるような方法、これを考えるのが一番。私は教育長もそうだと思うんですよ。

そうすると、ここに工法が木材だったら可能じゃないかなということが起きるんです。中学校もすぐどんどん工事にかかって造れる。その後小学校も増築できる。それが可能なのが木材。木材も工法によっては2分の1補助というのがあるんです。町長、ここははっきりと、このことを検討していただけないでしょうか。

**○町長（宮崎 吉敏君）** 河野議員の質問にお答えします。

なぜCM、コンストラクトマネジメントを入れたかという。木材でだから、将来、小学校が増設ができるのか。これは鉄骨、鉄筋でもできることなんです。木材だからできるということじゃないんです。そこは間違えてもらってはいけないと思います。

ただ、将来に向けて、長きにわたってどういう形の施設がいいのかというのは、今の現状、資材の高騰も含めながら、しっかりとそこの委託組織が判断してくれると私は思っています。私たちが確定できるものの中で判断するという、今おっしゃっているのは、ほとんどが想像の世界だと思うんです。やはりしっかりとした根拠を持って、そのことによって将来、子供たちに対する環境が守られるという、そこを、そのために、そのポジションを持ってきたわけですから。そういった資材含めて、全てを含めて、そこが管理、計画していくという、このことは私は尊重したい。

そして、小学校のことにおっしゃっていますけど、一番目の前にある大事なこと、今の中学生に、将来、中学になる子供たちに、どういった町が環境を整えてあげるのかという。

前に、同じく河野議員が一般質問で唐瀬原中学校に統合して、プレハブで校舎を造って、10年間プレハブの中で学んで、10年後に建設をという話もされました。私はそれが本当にいいのかどうか。やはり、今描いている川南町の、今現在の中学校に行く子たちに、いち早く環境を整える。これが最優先。そして、小学校も併せて考えていく。このことだと思っています。

以上です。

○教育長（平野 博康君） 私のほうからも少し補足をさせていただければと思います。

新中学校につきましては、木造化をしないということではありません。あくまで選択肢の一つとして検討はしていきたいと思っております。

ただ一方で、最近の学校建築では、完全木造よりも、例えば鉄筋コンクリート造や鉄筋造、内装や共有スペースに木材を多用するといった木質化が増えている現状がございます。その理由としましては、先ほども申し上げましたけれども、耐震性、耐久性、防火性の維持管理、将来的な改修などを含めた、総合的に判断してということになりますので、そのあたりをしっかりとCMとも相談をしてみたいというふうに考えております。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） この新中学校建設候補地のことも、ちょっと私、お聞きしたいんですけど、前から教育長が言われていたんですけど、あそこは文化ホール、図書館があつて環境がいいと。あそこに中学校を造るべきだとおっしゃったけど、今、文化ホール使用できません。いつ再開するかも見通しは立ちません。あの建物は、建設当初から雨漏りが発生している。図書館は、大雨が降るたびにバケツをいくつも置いている。当然、ホールは使用できませんよね。とても中学生にとって環境のいいという、その根拠はなくなりましたね、これは。やっぱり場所のことも、やはり私は考えるべきだと思うんです。位置の関係です。地図、防災マップを見たらすぐ分かります。川南の中心はどこか。川南小学校近辺なんです、中心は。―〔発言取消〕―

この候補地についても、町長、やはりあそこの、この前決められた場所にこだわりますでしょうか、どうでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 河野議員の質問にお答えします。

昨年12月の議会で基本計画が採決されました。この時に、文化ホール周辺のということで場所も御理解をいただきました。総合運動公園、また文化ホール等を含めて、商店街、また商工会、行政、場所とすれば、私は最適な場所と考えております。―〔発言取消〕―

○教育長（平野 博康君） 教育委員会の考えもお話しさせていただければというふうに思いますけれども、新中学校の整備につきましては、基本方針の中でも触れておりますように、図書館や文化ホール、運動公園をはじめ、福祉センターや保健センターといった役場関連施設、商工会や保育所など、近隣施設等の活用により、子供たちに恵まれた学習環境を提供できると考え、町中央部である川南文化ホール図書館複合施設周辺の町有地といたしました。

文化ホールにつきましては、現在、再開時期を明確にお示しできない状況であり、町民の皆様にお心配をおかけしているところでありますけれども、新中学校整備につきましては、生徒数の減少に伴う教育の質や教育環境の充実の観点から、早急に進める必要がある重要な事業でございますので、文化ホールの現在の状況のみをもって建設地を見直す考えはありません。

以上でございます。

○議員（河野 禎明議員） 町長は、あの場所で小学校が後から併設できるという考えですか。できますか。それをはっきり言えるんですか。

○町長（宮崎 吉敏君） できるのかできないのか。私は今現在、教育委員会が小学校のあるべき姿というのを基本計画ですかね、策定したとお伺いしています。まず、小学校ができるかできないか、そういったことも含めて、教育委員会でしっかりと検討されていることと思っています。ぜひ、今ある中学校の環境、これを何としても改善したい。あわせて、将来の小学校の在り方も含めて、教育委員会が考えていることを尊重し、小中学校をあわせて、しっかりとした教育環境を整える、そのことに尽きます。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 私が質問したのは、小学校がそこにちゃんとできますか。併設できますか。ということを知っているんじゃないですかね。

○町長（宮崎 吉敏君） 今おっしゃった様々なことを想定しながら、教育委員会はしっかりと方向性を出されています。その中で、まだ僕も詳しい内容等はお伺いしていませんので、ただ、教育委員会も河野議員がおっしゃるような、そういった心配も含めて、しっかりと検討なさっていると思っていますので、できるできない、もし二択で答えろというのであれば、できると思っています。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 小学校が併設できないときは、場所の変更もありということで理解しますね。

やはり、小学校問題は、2番目の問題です。小学校の統廃合ですね。令和7年の4月に教育長が小学校のアンケートを集められましたね。5年以内に小学校の再編を望む人が41.5%、10年以内は22.4%、計73.5%の方が小学校の再編を望んでいますね。これ、町長この数字は御存じですか。

○町長（宮崎 吉敏君） はい、存じ上げております。

○議員（河野 禎明議員） 小学校は待ったなしじゃないですか。山本小、多賀小、複式でしょう。そして先ほどもちょっと、ちらっと聞いたんですけど、町内の2月の出生数かな。1人だったとかいう話を聞いて、私もびっくりして、この子供の出生数はコロナ以降どんどこん何か落ち込んでいるというか、ちょっと深刻な事態が想定されます。少子化は歯止めがきかないですね。やはりこのアンケート結果を見たら、小学校の統合というのは早くテーブルに出して、中学校もだけど、小学校ももうこの統合ということを急がないと。

私は前、串間かな、串間の中学校の統合のことで視察に行きました。その時に説明を受けました。学校1つに1億かかると。あの時、串間の中学校は6校ありました。6億かかるといことですね。それを市内の福島中に寄せて1つの学校にするということでしたね。その時は校舎を1つぐらい建てた状態で統合ができましたね。

だから、そういうふうに今川南町の小学校5つあります。例えば5つですよ。1つの学校

に1億ぐらい、例えば校長先生、教頭先生、保健の先生、事務の職員の方、いろいろですね。維持費とか考えた場合ですよ。プールもそうですけど、大変な金額がかかるんです。これをやっぱり1つにする。極端に言ったら、小学校も中学校も10年後1つでいいわけなんですけど、1つにしたら、どれほど財政的にその無駄な経費がなくなるか。それを考えたら、もう待ったなしじゃないですか。これ小学校はもう毎月の役場の庁議ですか、庁議でもう一番話し合いに出すべきじゃないでしょうかね。どうでしょうか。

○教育長（平野 博康君） 議員がおっしゃるように、小学校につきましても、待ったなしというふうに捉えているところでございます。冒頭でお話しさせていただきましたように、小学校の再編につきましても、教育委員会の考えといいますか、基本方針を近日中に出させていただく予定にしておりますので、またその中でいろんな御意見をいただければありがたいなと思います。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 今、基本方針の結果をお聞きして、また考えたいと思います。

3番目に、ちょっと文化ホールのことなんですけど、文化ホールのことは今、町民にとって本当に困ったというか、こういうことが起きるんだなと思って、あれは建設当初から雨漏りが発生していたわけです。しょっちゅう修理代が発生していました。もう今までの修理代の合計は、計算すると10億超すのかも分かりませんし、大変なことだと思うんです。今、この文化ホールの現状と今後の見通しについて、ちょっと御説明いただけたらと思います。

○教育長（平野 博康君） 川南町文化ホールの現状につきましては、昨年度に実施した文化ホール客席天井耐震診断業務委託におきまして、耐震性がないと思われる、天井脱落の可能性があるなどの結果を受けて、天井の高さが6メートルを超えている舞台及びホール部分について使用を禁止しているところです。そのほかの会議室や楽屋等の施設につきましては、現在も使用している状況です。

また、今後の見通しについてでありますけれども、図書館部分も含めた川南町文化ホール図書館複合施設全体の耐力度調査を実施予定にしております、その調査結果を受けて検討をしていく予定にしております。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 本当にこれは私も考えるんですけど、25年以上雨漏りがしていたらコンクリートに雨が染み込んでいく、その中に鉄骨がある、鉄骨は水を含む、徐々に錆びてくる。これ本体自体が非常に、もちろん耐震設計も東日本震災の前の基準に沿った建物であるということをお聞きしているんですが、これ今度ホールだけ修理をしたとしても、もう数十億かかる修理の可能性もありますし、その修理をしたからといって図書館のほうの雨漏り、ほかのところの雨漏りが直るかという保証もないし、何か根本的に極端に言うと、このまま修理、修理でやってたら、とんでもない金額、修理代も高くなっているから。新しい、解体して新しいことも考えるべきなのかなという気もしますが、教育長いかがでしょうか。

○教育長（平野 博康君） 議員がおっしゃるように、今後のことにつきましては、正直分らないところでございますので、先ほど申し上げましたように、複合施設全体の耐力度調査を実施した上で、その結果を基に、今後どうするかということについては検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議員（河野 禎明議員） 検査結果が出たときに解体ということになると、これは非常に、中学校建設は計画しないといけない。さあ文化ホールはどうするか。文化ホールも建てないといけない。これは財政的に非常に困ったことがおきます。やはりこれも想定の中に、少し最悪のことも考えておかないといけないと思いますね。

もし最悪を考えるとしたら、木造ということを考えれば、それを避ける方法もあります。このことをどんどんこっちで計画していくと、もし検査結果が最悪でも、木造のほうはどんどん工事が進んで、早く学校ができると思います。そういうことも可能だと思いますね。

大体質問したんですけど、今日は止められなくて非常にありがたく思っております。ちょっと気になることがあってですね、3月議会で中学校コンストラクションマネジメントの委託料2億800万というのが上がりました。私もとんでもない金額が上がったなと思ってます。あと設計料というのがありますよね。前が2億3,500万でした。今度は2億5,000万ぐらいかかるかもしれません。あわせると5億近くの費用がかかるかもしれないです。私は困ったなと思っていました。ある議員がちらっと、これだけ予算をあれしたら後戻りできないでしょうねと言われたんです。あれ、後戻りできない。ああ、そうか。3年前の選挙の時に新しい町長が、新中学校建設反対で建設を中止しましたね。あの時2億3,500万の契約を解約したわけですね。ああ、あれ止めたからなと。今度は5億近くの予算を通したら後戻りできないでしょう。ここ辺のことをある議員がおっしゃって、私もびっくりしたんですけど、これ、町長、これ事実じゃないですよ。

○議長（中村 昭人議員） 通告は、どの通告に対する今の質問でしょうか。

（「新中学校建設計画のなかのこと」と発言する者あり）

○議長（中村 昭人議員） 議員の発言に対して、ということの答弁を求めているということですか。

（「違う。そういう意図であの予算を上げられたのかを聞きたい。」と発言する者あり）

○議長（中村 昭人議員） 議員の発言を意図してということですか。

（「そういうことだったのかと思う。後戻りさせないための――発言したのかと私は思った。」と発言する者あり）

○議長（中村 昭人議員） 議員が発言したことに対する町長の考え、その思惑があって提案されたのかという質問ですか。

（「――委託料はですね。」と発言する者あり）

○議長（中村 昭人議員） 今の質問にあった議員の発言をもとに答弁を求めるということ

に対しては、ちょっとなかなか許可をすることが難しいです。

○議員（河野 禎明議員） 以上で、質問を終わりたいと思います。